

令和２年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		
中長期目標	１ 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 ２ 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 ３ 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。	今年度の重点目標	１ 主体的な学びの推進 ２ 豊かな人間性の育成 ３ 地域に信頼される教育の展開 ４ 働き方改革の推進

年 度 当 初					最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 主体的な学びの推進	アクティブ・ラーニング等による授業改善と評価の改正	著名な講師を招き、示範授業や各種研修会を積極的に開催している。	・教員の授業スキルの向上 ・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に、肯定的な回答90%以上	・授業アンケートを全教員が確実に実施し、授業の改善を図る。 ・「定期考査等に関する検討プロジェクト委員会」の答申を、ループブックを作成し、確実に実行する。	・授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に、89.7%の生徒が肯定的な回答をした。 ・新型コロナウイルス感染症への感染予防のため、対面にならないよう工夫しながらICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を各教科で実践した。 ・開講科目ごとにループブックを作成してパフォーマンス評価を行った。また、期末考査の範囲をその学期全ての範囲とするなど、暗記を避け思考力・判断力・表現力を問う問題を増やした。	B
	SSH事業による科学的探究心・情報発信力・実践力の育成	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンペに積極的に打って出ている。 ・総参加者 41件・744人 ・予選を通過して上位大会へ出場した者 10件・87人	各種科学コンテスト・土曜授業等実施事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数 ・総参加者 50件・800人以上 ・予選を通過して上位大会へ出場する者 10件・100人以上	・内外コンクールやコンペに積極的に打って出るよう促す。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究発展」「課題探究応用」によって、主体的探究活動を推進する。	・12月末までの内外コンクールやコンペへの総参加者数は62件・1120人であった。その内、上位大会へ出場する者は11件・46人であった。 ・学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」では、専門家を招いて論理的思考を可視化するための講座を実施した。 ・学校設定科目「課題探究発展」では、「打って出る」目標と研究を結びつける取り組みにより、SSH運営指導委員会委員から「昨年より研究の質が高まっている」との賞賛を得た。 ・学校設定科目「課題探究発展」では、全生徒が英語論文及びパワーポイントの作成を行った。SSH研究成果発表会では英語口頭発表を2グループ、英語ポスター発表を8グループが行う。	B
	進路指導の充実	国公立大学合格者208名、難関大学合格者51名、現役合格者147名となった。	・国公立大学合格者200名以上 ・難関大学合格者70名以上 ・現役合格者160名以上	・新入試制度へ対応した方策をとる。 ・二次試験対策の強化(授業・講習) ・放課後講習の早期開始	・オンライン形式も併用しながら夏期講習、冬期講習、3年次の放課後講習を行い、多くの生徒が積極的に受講した。受講者数の過年度比較は以下のとおりであった。 夏期講習(1年次 8名⇒330名 2年次 119名⇒73名 3年次 173名⇒308名) 冬期講習(1年次 50名⇒146名 2年次 111名⇒104名) 3年次放課後講習(869名⇒1916名) ・臨時休業中や分散登校中、オンライン授業を実施し、授業進路を確保した。学力保障の観点からも大きな役割を果たした。11月進研記述模試の過年度比較は以下のとおりであった。 (1年次 昨年60.7⇒今年61.0 2年次 昨年59.0⇒今年60.5 3年次 昨年53.9⇒今年55.6)	A
2 豊かな人間性の育成	主体的・自律的態度の育成	・掃除の時間を朝に移行し、掃除の徹底を行っている。 ・総遅刻者数は延べ242人で対前年度比56%減であった。	・規範意識の高揚 ・品格と矜持をもった振る舞い ・主権者意識の高揚 ・TEASの推進 ・遅刻者数対前年比20%減 ・問題行動件数0件	・掃除と挨拶の徹底 ・お掃除マイスターによる講演会、主権者教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 ・遅刻確認票による遅刻指導の徹底	・12月末までの総遅刻者数は前年比7.9%増(昨年165人⇒今年178人)であった。 (1年次 昨年34人⇒今年70人 2年次 昨年37人⇒今年55人 3年次 昨年94人⇒今年53人) 3年次以外は増加しており、遅刻確認票などによる遅刻指導の徹底を行っている。 ・学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間に90.8%の生徒が肯定的な回答をした。 ・部活動に所属している生徒を中心に、気持ちの良い挨拶を行えるようになった。12月に生徒会執行部員を中心に朝の挨拶運動を自主的に行った。	B
	部活動の奨励	硬式野球部の春夏連続甲子園出場やダンス部が手話パフォーマンス甲子園全国大会に出場するなど各部が活躍し、生徒相互の良い刺激となっている。	・学業と部活動の両立 ・運動部活動 県大会ベスト4以上 ・文化部活動 中国ブロック以上	・中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やす。 ・「部活躍報告」を行うことよって、賞賛する機会を設ける。	・12月末までに中国大会に出場した部活動数は18(昨年42)、全国大会に出場した部活動数は7(昨年23)であった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの部活動で中国大会・全国大会が中止となったが、県高校総体の代替大会で、ボート部、女子バレー部、男女テニス部、サッカー部、水泳部、囲碁部が優勝を果たした。ダンス部は全国高校生手話パフォーマンス甲子園へ2年連続出場し、硬式野球部は秋季鳥取県高等学校野球大会で優勝し、中国大会へ進んだ。 ・「部活躍報告」で、上位入賞した部活動などを表彰し、賞賛する機会を設けた。	B
	体験的な学びの推進	国際交流・人権教育などを通して多面的な教育を展開しているが、追求する姿勢が足りず、妥協している生徒も多い。	・人権教育の推進 ・異世代・異文化交流の推進 ・読書活動の充実 ・ボランティア活動への積極的な参加 ・何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成	・台湾桃園市立陽明高級中学との交流 ・オーストラリアアデレードでの海外研修の実施 ・体験型ワールドカフェ形式・パネルディスカッション形式の人権教育公開LHRの実施	・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、SSHオーストラリアアデレード研修、台湾桃園市立陽明高級中学への訪問が中止となった。代替として鳥取大学乾燥地研究センターでの研修を実施した。また、台湾桃園市立陽明高級中学とは、受験合格を祈願しエールを交換するオンライン交流を行った。 ・スタンフォード大学によるグローバルリーダーズキャンパスの受講希望者は昨年度の9名から17名に倍増した。グローバルな視野から世界の諸問題について議論しようという意識が高まっている。 ・人権教育LHRは1年次は体験型ワールドカフェ方式で行い、3年次はSDGsを題材にして取り組み、生徒自身が国際課題に対してどのように貢献できるかを学んだ。	B
3 地域に信頼される教育の展開	PTA活動の推進	PTAの各委員会(総務、人権教育推進、生徒育成、進路)が活発に活動している。	保護者と教職員の連携	PTAのニーズに対応した事業内容の見直しを進める。	・新型コロナウイルス感染症への感染予防のため、各種PTA行事を「鳥取県立学校版感染症予防ガイドライン」に基づいて開催した。 ・「米東だより」では、保護者と連携し、部活動紹介・オンライン授業、校外開催の柏葉祭、ヘルメット着用推進等、様々な角度から取材し学校情報を伝えた。	B
	地域への発信	・積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。 ・学校運営協議会試行会議を開催し、学校運営協議会導入に向けた準備を進めている。	・積極的な学校情報の発信 ・地域との連携強化 ・学校運営協議会の導入	・ホームページにより積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会と連携し、地域住民の理解と協力を得た学校運営を実現する。	・新型コロナウイルス感染症の影響で諸行事が中止になる中、積極的に学校情報の発信を行った。12月末までのHPの更新回数(188回(昨年147回)であった。 ・学校満足度アンケート「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信しているか」の間に81.4%の保護者が肯定的な回答をした。 ・マスクミへの情報提供によって、生徒の活躍や学校の様子がタイムリーに報道された。	A
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	教職員の1人あたりの時間外業務時間は対H29年度比33%減(H29:27.4時間/月⇒R1:18.8時間/月)だった。	教職員の1人あたりの時間外業務時間は対H29年度比25%減	「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守する。	・時間外業務時間が多い職員を目標面談時や最終面談に個別に指導するなどした結果、12月末までの教職員の時間外業務時間は対H29年度比57%減だった。 (H29:28.9時間/月⇒R1:19.4時間/月⇒R2:12.5時間/月) ・教員業務アシスタント配置により、印刷業務や文書配布作業などの事務負担が大きく軽減した。	A
	会議の精選	会議・委員会の廃止・統合など業務の効率化を進めている。	協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数を削減する。	会議の回数削減等による業務の効率化を進める。	・協議スキームを徹底し、会議の削減を行った。 ・11月をノー会議月間と定め、極力会議を行わないようにした。	B

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要